

➤ 29日 水曜

ゼパニヤ



3:1 わざわいだ、反逆と汚れに満ちた暴虐の都。

3:2 呼びかけを聞こうともせず、戒めを受け入れようともせず、【主】に拠り頼まず、神に近ぶこうともしない。

3:3 その都の高官たちは都の中で吼えたいける雄獅子。その都をさばく者たちは夕暮れの狼。朝まで骨をかじってはいない。

3:4 預言者たちは、ふしだらで裏切る者。祭司たちは聖なるものを冒して、みおしえを冒す。

3:5 【主】は、そのただ中であって正しく、決して不正を行われぬ。ご自分の公正を、朝ごとにくまなく照らす光とされる。しかし、不正を働く者は恥を知らない。

3:6 「わたしは諸国の民を断ち切った。その四隅の塔は荒れ果てた。わたしは彼らの通りを廃墟とした。通り過ぎる者はだれもいない。彼らの町々は荒れすたれた。人は一人もおらず、住む者もない。

3:7 わたしは言った、『あなたはただ、わたしを恐れ、戒めを受け入れよ。そうすれば、わたしがこの都をどれほど罰しても、その住まいは断ち切られない。確かに彼らは、繰り返してあらゆる悪事を行ったが。』

3:8 それゆえ、わたしを待て。——【主】のことば——わたしが証人として立つ日を待て。わたしは諸国の民を集め、もろもろの王国をかき集め、わたしの激しい憤りと燃える怒りをことごとく彼らに注いで、わたしのさばきを下すからだ。全地は、わたしのねたみの火で焼き尽くされる。

れはエルサレムの不信仰とその社会的墮落が告発されています。神に従わない社会は、本来正しくあるべき人々さえも、獅子や狼のように、横暴なものになってしまうのです。このような社会はもう救いようがありません。

そのような人々に対して主は、「わたしは諸国の民を断ち滅ぼした。」と、そのさばきを教えて、警告を与えておられます。その警告は、主に立ち返るためであり、同じようなさばきが下されないためです。

主の警告や叱責に耳を傾けましょう。それは私たちが、みこころに叶ったものとなり、幸いを得るためです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

